

令和6年度 日本大学スポーツ科学部 個人研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科
資格： 専任講師
氏名： 小泉 夏子

研究課題名	1970年代の女性の批評に関する研究
研究目的及び研究概要	【研究目的】 日本の批評領域では、他国に比べて女性批評家が少ない。これはどのような歴史的・社会的条件によって引き起こされたのか。本研究は、日本独自の文脈を追いながらその構造を明らかにすることを目的とした。 【研究概要】 1970年代のウーマン・リブ運動関連の女性の言説を調査し、女性を書いた評論の特徴を整理するとともに、批評の政治性自体を問い直しながら、文芸ジャンルにおいてなぜ突出して女性の批評家が少ないのか、その背景を探った。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	【研究の進捗状況】 2024年8月にウーマン・リブ運動の旗手として知られる田中美津が亡くなり、再びその功績に注目が集まった。こうした動きも関係してウーマン・リブ運動関連の資料の閲覧は簡便になってはきたが、草の根運動という性格から雑誌の発行形態が多岐にわたり、また散逸も多いために依然として資料を概観することは難しい。そこで本研究は、令和3年度に収集した資料を土台に、さらに資料の収集と調査をおこなった。 【得られた成果】 集めた資料をもとに女性を書いた批評の分析をした結果、批評の特徴と、当時の女性をとりまく文化的社会的状況の一部を明らかにすることができた。 【今後の課題】 今後は、本年度明らかとなった戦後の女性の批評言説の特徴を踏まえ、「母性」や「少女」をキーワードに、批評において政治・近代史との関連で構想される女性イメージが、実際の女性の言動にどのような影響を及ぼしたか考えてみたい。さらに、詩的言語と批評の言語が接合される文学場の周辺の動きも再考したい。